

2023 年度年次総会前の常務理事会・理事会 ハイブリッド方式で開催 (2023.06.10)

オンラインと 会場：ドイツ文化会館 4F OAG 会議室

時間	プログラム
<p>13:15 - 13:50 合計 31名 (うち現地参加 7人)</p>	<p style="text-align: center;">== 常務理事会・理事会 拡大理事会 ==</p> <p>(常務理事) (17人) *現地参加 *伊藤 眞 (理事長)、*縣 公一郎 (副理事長)、*西川伸一 (副理事長) 伏木信次、広渡清吾、居城邦治、*岡林 洋、坂越正樹、櫻田嘉章、須田利美 *高橋宗五、*高橋義人、*高山佳奈子、武内謙治、種村眞幸、和田 肇、 山本敬三</p> <p>(理事) (12人) 細野 眞、笠井 修、香田芳樹、小坂光一、三木順子、仲道祐樹、大下浄治、 小澤 守、田所 諭、高田 篤、宇高恵子、山上浩志</p> <p>(顧問) 奥田昌道 (監事) 吉川泰弘</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2022 年度の活動報告 (資料 1) ② 2023 年度の活動方針 (資料 2) ③ 2022 年度の決算報告・2023 年度予算案 (資料 3) ④ 奨学金基金と財政安定化基金の会計状況について (資料 4) ⑤ 監査報告 (資料 5) ⑥ 2023 年度日独共同研究奨学金 (採択結果等) について (資料 6) ⑦ 改選による役員候補者の提案 (資料 7) ⑧ 支部活動について (拡大理事会でのみ報告) (資料 8) ⑨ その他
<p>会員総会プログラム 開始</p>	
<p>14:00 - 14:50 (参加申込) 役員 31人 会員 45人 (うち現地参加 16人)</p>	<p style="text-align: center;">== 日本フンボルト協会 2023 年度会員総会 ==</p> <p style="text-align: center;">理事長挨拶</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2022 年度の活動報告 (資料 1) ② 2023 年度の活動方針 (資料 2) ③ 2022 年度の決算報告・2023 年度予算案 (資料 3) ④ 奨学金基金と財政安定化基金の会計状況について (資料 4) ⑤ 監査報告 (資料 5) ⑥ 2023 年度日独共同研究奨学金 (採択結果等) について (資料 6) ⑦ 改選による役員候補者の提案 (資料 7) ⑧ その他
<p>15:00 - 16:00 (参加申し込み 76人)</p>	<p>== 講演会 ==</p>
<p>16:00-16:15</p>	<p>== 新理事会 ==</p>

(16:30-18:00 現地参加の会員向け懇親会開催)

主催：日本フンボルト協会

1. 2022 年度年次総会について

- ・2022 年度総会を、オンライン形式で開催した。
常務理事会・理事会合同理事会（12 時～12 時 50 分）の後、会員総会（13 時～13 時 50 分）が行われた。終了後、von Goetze 駐日ドイツ連邦共和国大使の講演が行われ、参加者は 65 名であった。von Goetze 前大使の講演については YouTube に録画を掲載した。

2. 協会運営の諸会議について

- ・常務理事会を 2022 年 6 月 11 日（土）、7 月 9 日（土）（臨時会議）、8 月 27 日（土）、12 月 17 日（土）、2023 年 3 月 18 日（土）、4 月 29 日（土）（臨時会議）に、何れも Zoom 形式で実施した。

3. ドイツ研究留学説明会の開催

- ・コロナ禍の状況のもと、ドイツ・フンボルト財団の研究奨学生への選考は通常通り行われていることから、2023 年 3 月 25 日（土）、日本フンボルト協会主催のドイツ研究留学説明会が Zoom 形式で開催され、190 名の登録があった。当日は、全体説明会および各領域の分科会、またオンライン形式による利点を生かし、ドイツ滞在の研究者による現地の研究状況など有益な情報が寄せられ、活発な情報交換がなされた。そのうち DAAD の分科会希望者が 3 分の 1 であった。

4. 日独学術情報発信について

- ・日本フンボルト協会主催・共催の Zoom 討論会を以下の要領で開催し、毎回多くの参加者があり、活発な意見交換がなされた。

≪文化の危機への応答 — 3つの時代〈大戦、東西、コロナ〉のなかに聴く芸術の声—≫

(YouTube に掲載 <https://youtu.be/Ca0EFNMxyG4>)

Covid-19 シリーズ第 6 回 日本フンボルト協会主催

日時：2022 年 4 月 16 日（土）14 時～16 時 参加者：74 名

登壇者：岡田暁生 氏（京都大学）、貫 成人会員（専修大学）

司会： 三木順子会員（当時：京都工芸繊維大学 現：神戸女学院大学）

≪Globalism、Nationalism、そして Localism≫

Covid-19 シリーズ第 7 回 日本フンボルト協会主催

日時：2022 年 9 月 17 日（土）

登壇者：城山英明 氏（東京大学法学政治学研究所）

「新型コロナウイルスに関するグローバル保健ガバナンスと日本の対応の課題」

川村陶子 氏（成蹊大学文学部）

「コロナ禍におけるドイツの保健ガバナンス：国際文化関係運営の視点から」

司会：縣 公一郎会員（早稲田大学）

5. 支部活動について

- ・新型コロナ感染が全国的に拡大する中、各支部活動も中断を余儀なくされているが、各支部ともリモート形式で幹事会、総会、Zoom による講演会などを精力的に開催し、支部活動の活性化に努めた。以下が Zoom で開催された講演会です。

○関東甲信越支部 2023 年 3 月 11 日（土）

題目：「ウクライナ戦争と国際刑事法」

講師：Philipp Osten 会員（慶応義塾大学法学部教授）

○中部支部 2022 年 11 月 27 日（日）

話題提供者：玉井 秀樹 氏（博士）（豊田合成株式会社 新価値開発部 勤務）

テーマ：「ドイツ ブラウンシュバイク & ゲッティンゲンでの留学経験談（生活、旅行と研究）」

○関西支部

日時：2022年10月23日（日）15:00～

講演者：原田英美子会員（滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科）

タイトル：「ライプニッツ植物生化学研究所(IPB)で過ごした3年間」

○九州支部

日時：2023年3月1日（水）18:30～20:30

講演会：河野俊行教授（九州大学 大学院法学研究院）

テーマ：「ノートルダム大聖堂の現在——その価値、被災、再建」

6. 第4回日独共同研究奨学金

- ・2022年度の日独共同研究奨学金への応募4件（理系3件、文系1件）について、選考委員会で厳正・公平に審査し、下記の2件の助成候補研究（理系2件）が、常務理事会（同奨学金実施委員会）に提案され承認された。その後、2022年度年次総会で報告された。

1. 課題：『完全既約性、幾何学的不変式論、ビルディングの理論：

代数群の統一的な理解に向けて』

助成対象者：Falk Bannuscher, PhD（2021.10, Ruhr University Bochum）

申請者：内山 智博 会員（創価大学国際教養学部准教授、数学（代数学））

2. 課題：『ハプト藻類の日本発形質転換技術による

炭酸カルシウム結晶細胞殻形成の分子機構の解明』

助成対象者：Ekta Kumari (PhD, Postdoc, Fakultät Biologie,
Technische Universität Dresden, Biomineralisation)

申請者：白岩 善博 会員（筑波大学名誉教授、植物代謝生理学）

- ・なお、上記の採択プロジェクトのうち2. については、助成期間開始後、申請者から共同研究者の特別な事情から、共同研究の遂行が困難になったため、助成金（50万円）を辞退したい旨の申し出があり、常務理事会（同奨学金実施委員会）で対応を協議した結果、繰り上げ採択などの措置は取らず、本年度の採択プロジェクトは1件とすることが決定された。
- ・2023年度、第5回日独共同研究奨学金の募集を実施し、4件（理系3件、文系1件）の申請があり、選考委員会で審査が行われた。

7. 協会の財政安定化に向けた方策

- ・フンボルト財団からのデータに基づき、シーボルト賞など、日独学术交流に関する各賞受賞者にも、本協会への入会を促した結果、13名が会員登録を行った。

8. Humboldt-Kolloquium について

- ・当初、東大で開催される予定であった、上記 Kolloquium は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2022年11月17日、18日にオンライン方式で開催された。開催前日には、フンボルト留学希望者を対象にした説明会が開催され、当日は、基調講演に続き、各分野別のセッションが行われ、多くの若手研究者が参加した。18日には、パネルディスカッションが行われ盛会であった。また、19日には、女性研究者のための企画が行われ、積極的な議論がなされ、成功裡に終了した。ドイツ・フンボルト財団本部からの日本フンボルト協会の支援に対し、感謝の念が表された。

9. 「日本フンボルト協会ニューズレター」（Nr. 10 2022年9月）を刊行した。

以上

1. 2024 年度年次総会について

- ・コロナ禍の収束状況など諸般の状況を勘案し、今回同様、対面式とオンライン方式を併用したハイブリッド方式での開催を軸に、開催時期、開催場所等について、引き続き常務理事会で検討していく。

2. 留学説明会について

- ・ドイツ留学説明会を本部主催として開催することを前提に、コロナ禍以前のように、本協会年次総会と同じ日程で行うかも含めて常務理事会で検討を行う。また、各支部で開催される留学説明会とも、密接に連携し、特に支部企画の留学説明会については、それぞれの地域に密着した、よりきめの細かい留学情報の提供を行っていく。

3. 学術情報発信について

- ・日本フンボルト協会による日独学術情報発信の一環として、アクチュアルな学術テーマについて、本協会主催の講演会や討論会などを、ハイブリッド方式で引き続き積極的に開催する。

講演会

- ・日時：2023 年 7 月 8 日(土) 15:00-16:00 オンライン形式
- ・講演者：Prof. Dr. David Wolff (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)
- ・演題：「20 世紀ロシアのアジアにおける活動の歴史」(仮題)
- ・使用言語：英語

討論会

- ・日時：2023 年 11 月 11 日(土) オンライン形式
- ・テーマ：《「日常」の扉をあける：ゲーテ『親和力』とその時代》

- ・日独学術交流に関する日本フンボルト協会主催の講演会や討論会についての情報を、要請に応じて、他のアルムニクラブや学会などに提供し、フンボルト協会の活動に関する発信に努める。

4. 日独学術交流の促進について

- ・日独学術交流を一層発展させるために、それぞれの学術分野において、さまざまな方策を検討していく。

5. 支部活動について

- ・各支部の活動の一環として、例えば DAAD 友の会と連携した企画を検討するなど、支部活動の一層の活性化を進める体制を、協会本部としてもサポートしながら構築していく。

6. 協会会員について

- ・日本フンボルト協会の会員数を増やすための方策のひとつとして、昨年度に引き続き、シーボルト賞など、日独学術交流に関する各賞受賞者に賛助会員としての入会を要請するなど、新会員の獲得を図る。

7. 協会財政安定化について

- ・会費未納会員に対する対応策を引き続き検討すると同時に、各方面に本協会活動への理解と支援を求めていく。

8. 第 6 回日独共同研究奨学金制度

- ・広く本奨学金制度を周知することにより、申請数の増加に努めると同時に、優秀なプロジェクトへの同奨学金制度によるドイツ研究者との共同研究の助成を、引き続き推進する。

以上

日本フンボルト協会 2022年度会計収支 (2022年4月1日～2023年3月31日) (2023年03月31日現在)

(収入の部)					
	項 目	2022年度予算	2022年度決算	2022年度 明細	2023年度予算
1	年会費	2,400,000	2,408,000	602口 (内訳: 2019年度2口、2020年度1口、2021年度10口、2022年度584口、2023年度5口)	2,400,000
2	利息	20	16	普通預金利息	20
3	寄付	1,000,000	1,036,013	下記参照	50,000
4	フンボルト財団支援金	0	0		84,700
5	総会懇親会参加費	0	0		30,000
6	収入小計	3,400,020	3,444,029		2,564,720
7	前年度繰越金	1,787,578	1,787,578		1,425,712
8	収入計	5,187,598	5,231,607		3,990,432
(支出の部)					
	項 目	2022年度予算	2022年度決算	2022年度 明細	2023年度予算
9	総会・説明会等開催費	100,000	0		150,000
10	支部運営助成費	570,000	570,000	関東甲信越支部(200,000)、関西支部(200,000)、九州支部(100,000)、北海道支部(50,000)、中部支部(20,000)	600,000
11	会合費	20,000	8,300		30,000
12	シンポジウム、講演会等謝礼(新)	200,000	60,000	講演会の謝金	100,000
13	通信費	350,000	312,207	会費請求・ニューズレターの送付等、電話使用料(友の会と折半)15,806	200,000
14	印刷・複写費	120,000	99,406	会報印刷など	100,000
15	事務所施設利用費	50,000	47,045	(以下DAAD友の会と折半) 電気代19,545、事務所清掃代27,500	50,000
16	事務経費(名称変更)	100,000	92,869	うちZoom設定費、事務用品費	100,000
17	事務局人件費	1,400,000	1,400,386	事務局員への謝金、発送の手伝い要員の費用、交通費	1,400,000
18	振込手数料等	5,000	5,057	銀行振込手数料	5,000
19	予備費	100,000	174,612	DAADのMahnkeさん送別会支援、ドイツ大使館主催DAADMusikerコンサート支援、Muenteferingさんを囲む会	100,000
20	寄付金払い出し(新) (4月14日に寄附口座に振替済)	1,000,000	1,036,013		50,000
21	支出小計	4,015,000	3,805,895		2,885,000
22	次年度繰越	1,172,598	1,425,712		1,105,432
23	支出計	5,187,598	5,231,607		3,990,432
(備考)					
① 日本フンボルト協会寄附口座 預金額 1,806,816円		日本フンボルト協会寄附口座			
② 2011年度アルムニ賞賞金25,000ユーロ=2,764,326円(利息を含む)は、ホームページと留学支援サイトの構築のためにあてられた。現在、残額が160,893円である。フンボルト財団の了承を得て、残額は、「ホームページ管理特別基金」の下におき、ホームページの維持管理のために使用する。(年間維持費 44,000円)		(現在残高 1,806,816円) 2022年度入金分 1,036,013円 (内訳) (故)加藤久雄会員 1,000,000円 他5件 36,000円 利息 13円			
③ 会費納入会員数の推移(2015) 797 / (2016) 698 / (2017) 635 / (2018) 632 / (2019) 617 / (2020) 575 / (2021) 636 / (2022) 598 / (2023) / 5					

資料④

日独共同研究奨学金基金及び協会財政安定化基金 (2023年03月31日現在)

《日独共同奨学金基金 口座》

収 入		支 出	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	5,540,000円	2019年度2件分奨学金支給	1,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	145,000円	印刷、事務用品(2019年度)	10,815円
外部の個人・企業からの寄付	4,840,000円	送金手数料	29,908円
利息 (2020年8月まで)	113円	2020年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2021. 02. 22)	39円	印刷、事務用品(2020年度)	9,946円
利息(2021. 08. 23)	36円	送金手数料	880円
利息(2022. 02. 21)	33円	2021年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2022. 08. 22)	32円	送金手数料	550円
利息(2023. 02. 20)	29円	2022年度2件分奨学金支給 (2022. 09. 13)	1,000,000円
奨学金1件の返還 (2022. 11. 11)	500,000円	送金手数料	550円
		残 高	6,972,633円
合 計	11,025,282円	合 計	11,025,282円

《財政安定化基金 口座》

収 入	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	2,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	31,000円
利 息 (2020年8月まで)	15円
利息(2021. 02. 22)	9円
利息(2021. 08. 23)	9円
利息(2022. 02. 21)	9円
利息(2022. 08. 22)	9円
利息(2023. 02. 20)	9円
合 計	2,031,060円

2022年度監査報告書

日本フンボルト協会

理事長 伊藤 眞 殿

私は、日本フンボルト協会の監事として会則の定めるところに基づき、
本会の2022年4月1日より2023年3月31日に至る期間の会務
の執行および会計収支の状況につき監査を行いました。

監査の結果、上記の期間において会務が適切に執行されており、また関係
するすべての書類が収支と財産の状況を適正に示していることを確認
いたしました。

以上、ご報告いたします。

2023年 5月 29日

監事 芳賀 雅顯



監事 吉川 泰弘



2023年度日独共同研究奨学金採択プロジェクト一覧

(2023.06.10)

1. 課題：『超高速蛍光寿命イメージングによる細胞内小器官の大規模解析』

ドイツ語：Großflächige Analyse intrazellulärer Organellen durch ultraschnelle
Fluoreszenz-Lebensdauer-Bildgebung

助成対象者： Vishnu Narayanan Suma Sreechakram,

学歴： Indian Institute of Science Education and Research, Bhopal (MS)

所属： Justus-Liebig-University Giessen, 研究分野： Biological Sciences

申請者： 合田 圭介（東京大学大学院理学系研究科）

研究分野： 物理学、化学

2. 課題：『日本の一党支配体制における立法上の野党の役割』

ドイツ語：Die Rolle von Oppositionsparteien in der Legislative im von einer Partei
dominierten System Japans)

助成対象者： Elena Korshenko

学歴： ロンドン大学 School of Oriental and African Studies修了（2013/12）

東京大学社会科学研究所 客員研究員（2017/4～10、2018/10～2019/3）

所属機関： ベルリン自由大学 歴史・文化学部日本研究所

研究分野： 日本政治

申請者： 小嶋 大造（東京大学大学院農学生命科学研究科）

研究分野： 公共政策（農業政策、財政政策）

3. 課題：『原子核時計実現に向けたトリウム229イオンのレーザー冷却技術の開発』

ドイツ語：Entwicklung einer Laserkühltechnologie für Thorium-229-Ionen zur
Realisierung einer optischen Uhr

助成対象者： Johannes Tiedau

学歴： PhD student (Universität Paderborn) (2015/11～2020/3)

学位取得 (Universität Paderborn) (2020/9)

Postdoc (Physikalisch-Technische Bundesanstalt) (2020/10～)

研究分野： 原子時計・イオントラップ・量子光学

申請者： 山口 敦史（専任研究員、国立研究開発法人 理化学研究所）

研究分野： 原子時計・原子のレーザー精密分光・イオントラップ

日本フンボルト協会 理事・評議員候補者リスト（案）（2023年度総会から2025年度総会まで）

	ご氏名	Name	Vorname	ご所属	支部名
理事	居城 邦治	Ijiro	Kuniharu	北海道大学 電子科学研究所	北海道
理事	水野 浩二	Mizuno	Koji	北海道大学 大学院法学研究科・法学部	北海道
理事	中沢 大悟	Nakazawa	Daigo	北海道大学 大学院医学研究院、北海道大学病院	北海道
理事	長谷川 隆文	Hasegawa	Takafumi	東北大学 大学院医学系研究科	東北
理事	須田 利美	Suda	Toshimi	東北大学 電子光物理学研究センター	東北
理事	田所 諭	Tadokoro	Satoshi	東北大学 大学院情報科学研究科	東北
理事	縣 公一郎	Agata	Koichiro	早稲田大学 政治経済学術院	関東甲信越
理事	荒木 稚子	Araki	Wakako	東京工業大学 工学院機械系	関東甲信越
理事	林 香里	Hayashi	Kaori	東京大学 理事・副学長、東京大学 大学院情報学環	関東甲信越
理事	星野 宏美	Hoshino	Hiroshi	立教大学 異文化コミュニケーション学部	関東甲信越
理事	井田 良	Ida	Makoto	中央大学 大学院法務研究科、慶應義塾大学名誉教授	関東甲信越
理事	伊藤 眞	Itoh	Makoto	筑波大学名誉教授	関東甲信越
理事	笠井 修	Kasai	Osamu	中央大学 法科大学院	関東甲信越
理事	香田 芳樹	Koda	Yoshiki	慶應義塾大学 文学部	関東甲信越
理事	松本 洋一郎	Matsumoto	Yoichiro	東京大学名誉教授、前東京理科大学学長、 外務大臣科学技術顧問、科学技術振興機構事業主監	関東甲信越
理事	仲道 祐樹	Nakamichi	Yuki	早稲田大学 社会科学総合学術院	関東甲信越
理事	西土 彰一郎	Nishido	Shoichiro	成城大学 法学部	関東甲信越
理事	田口 正樹	Taguchi	Masaki	東京大学 大学院法学政治学研究科	関東甲信越
理事	高橋 宗五	Takahashi	Sogo	東京大学名誉教授	関東甲信越
理事	鏑田 武志	Tsubata	Takeshi	日本大学 歯学部	関東甲信越
理事	渡辺 紀徳	Watanabe	Toshinori	東京大学 大学院工学系研究科	関東甲信越
理事	石田 秀治（新）	Ishida	Hideharu	岐阜大学 応用生物科学部	中部
理事	種村 眞幸	Tanemura	Masaki	名古屋工業大学 物理工学専攻	中部
理事	和田 肇	Wada	Hajime	名古屋大学名誉教授	中部
理事	伏木 信次	Fushiki	Shinji	京都府立医科大学 研究質管理センター長、 京都中部総合医療センター総長	関西
理事	細野 眞	Hosono	Makoto	近畿大学 医学部放射線医学教室	関西
理事	金 尚均	Kim	Sangyun	龍谷大学 法学部	関西
理事	三木 順子	Miki	Junko	神戸女学院大学 文学部総合文化学科	関西
理事	守矢 健一	Moriya	Kenichi	大阪公立大学 大学院法学研究科	関西
理事	小川 暁夫	Ogawa	Akio	関西学院大学 文学部	関西
理事	岡林 洋	Okabayashi	Hiroshi	同志社大学 人文科学研究所元所長	関西
理事	小澤 守	Ozawa	Mamoru	関西大学名誉教授、関西大学社会安全研究センター	関西
理事	澤 芳樹	Sawa	Yoshiki	大阪大学 大学院医学系研究科	関西
理事	高田 篤	Takada	Atsushi	追手門学院大学 法学部、大阪大学名誉教授	関西
理事	高橋 義人	Takahashi	Yoshito	平安女学院大学 特任教授、京都大学名誉教授	関西
理事	高山 佳奈子	Takayama	Kanako	京都大学 大学院法学研究科	関西
理事	床谷 文雄	Tokotani	Fumio	奈良大学 文学部文化財学科、大阪大学名誉教授	関西
理事	山上 浩志	Yamagami	Hiroshi	京都産業大学 理学部物理科学科	関西
理事	山本 敬三	Yamamoto	Keizo	京都大学 大学院法学研究科	関西
理事	坂越 正樹	Sakakoshi	Masaki	広島文化学園大学学長、広島大学名誉教授	中四国
理事	大下 浄治	Ohshita	Joji	広島大学 大学院先端理工系科学研究科	中四国
理事	宇高 恵子	Udaka	Keiko	高知大学 医学部	中四国

日本フンボルト協会 理事・評議員候補者リスト（案）（2023年度総会から2025年度総会まで）

	ご氏名	Name	Vorname	ご所属	支部名
理事	荻野 蔵平（新）	Ogino	Kurahei	元熊本大学 文学部	九州
理事	武内 謙治	Takeuchi	Kenji	九州大学 大学院法学研究院	九州
評議員	Karthus, Olaf（新）	Karthus	Olaf	公立千歳科学技術大学	北海道
評議員	稲葉 馨	Inaba	Kaoru	東北大学名誉教授	東北
評議員	橋本 陽子	Hashimoto	Yoko	学習院大学 法学部	関東甲信越
評議員	小林 尚登	Kobayashi	Hisato	法政大学名誉教授	関東甲信越
評議員	小西 飛鳥	Konishi	Asuka	平成国際大学 法学部法学科	関東甲信越
評議員	桑原 聡	Kuwahara	Satoshi	新潟大学名誉教授	関東甲信越
評議員	大崎 博之	Ohsaki	Hiroyuki	東京大学 大学院新領域創成科学研究科	関東甲信越
評議員	榊原 哲也	Sakakibara	Tetsuya	東京女子大学 現代教養学部	関東甲信越
評議員	山名 淳	Yamana	Jun	東京大学 大学院人文社会系研究科	関東甲信越
評議員	中村 英樹	Nakamura	Hideki	名古屋大学 大学院環境学研究科	中部
評議員	渡部 美由紀（新）	Watanabe	Miyuki	名古屋大学 大学院法学研究科	中部
評議員	平田 健治	Hirta	Kenji	大阪大学名誉教授、大阪経済法科大学特別専任教授	関西
評議員	高橋 英治	Takahashi	Eiji	大阪公立大学 大学院法学研究科	関西
評議員	梅川 尚嗣	Umekawa	Hisashi	関西大学 システム理工学部機械工学科	関西
評議員	日置 善郎	Hioki	Zenro	徳島大学名誉教授	中四国
評議員	田代 聡	Tashiro	Satoshi	広島大学 原爆放射線医科学研究所	中四国
評議員	遠藤 歩	Endo	Ayumu	九州大学 大学院法学研究院	九州
評議員	五十君 麻里子	Igimi	Mariko	九州大学 大学院法学研究院	九州
監事	芳賀 雅顯	Haga	Masaaki	慶応義塾大学 法科大学院	関東甲信越
監事	吉川 泰弘	Yoshikawa	Yasuhiro	岡山理科大学 今治キャンパス獣医学部	中四国
顧問	広渡 清吾（新）	Hirawatari	Seigo	東京大学名誉教授	関東甲信越
顧問	奥田 昌道	Okuda	Masamichi	京都大学名誉教授、元最高裁判所判事	関西
顧問	櫻田 嘉章（新）	Sakurada	Yoshiaki	京都大学名誉教授、甲南大学 名誉教授	関西

日本フンボルト協会北海道支部

2022 年度活動報告書

2023 年 5 月 25 日

2021 年度の支部幹事会決議に基づき、以下の通り、支部としての活動を行った。

記

(1) ドイツ研究留学説明会の広報活動について

2022 年 3 月、2023 年 3 月 25 日開催のドイツ研究留学説明会を広報するために、支部助成金で掲示用ポスターを印刷して、支部会員ならびに北海道大学内の関係部局に配布して掲示を依頼した。また、同大内でメーリングリストを使って周知した。

(2) 講演会の企画について

フンボルト賞を受賞したウルフ ディビッド先生（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）に依頼して、7 月 8 日（土）にオンラインで“2023 年度 Forschungspreis” 受賞記念講演会（本部主催）を開催することを企画した。

(3) 支部総会について

2023 年 2 月 27 日（月）にオンラインで北海道支部総会を開催した。ここで、次期支部長（居城）、次期理事（居城、水野先生、中沢先生が継続）、評議員（カートハウス先生に交代）を推薦することが承認された。また、2023 年度の活動予定として、支部講演会、支部総会を開催することとした。フンボルト奨学金の最近の動向、日本フンボルト協会の活動内容ならびに会計収支経過、ドイツ研究留学説明会の開催が報告された。参加者は 8 名であった。

(4) 北海道支部理事懇談会について

2023 年 3 月 31 日（金）に北海道支部理事懇談会を開催した。今後の北海道支部の活動方針について議論した。また、ドイツ留学説明会の支援事業として、北海道支部でフォローアッププログラムを開催することが話し合われた。

(5) 2023 年度の活動予定について

2023 年 9 月 23 日（土）にカートハウス会員が講師となり北海道支部講演会を Zoom で開催する予定である。そのほか、支部総会・理事懇談会の開催。北海道地区の学生および若手研究者へのドイツ留学説明会の開催を予定している。

以上

(日本フンボルト協会北海道支部長 居城邦治)

2022年度・日本フンボルト協会東北支部活動報告

2023年5月23日

2022年度の東北支部の活動を報告いたします。

1) 2023年3月25日に実施されたフンボルト協会主催の留学説明会に関する開催案内を、東北大学教育・学生支援部留学生課海外留学係に依頼し全部局の教員並びに学生にメールによる周知を行いました。

2) 今年度は東北支部総会を実施できませんでした。2023年度は、9月23日(土)に予定されているDAADとの共催「2023 Alumnitreffen in Sendai」に合わせて、フンボルト協会東北支部総会を開催する予定としています。

(日本フンボルト協会東北支部長 須田 利美 (東北大学・電子光理学研究センター長))

 関東甲信越支部

2022年度の活動報告 (現在の会員数 619名)

2023年5月

- * 2022年3月19日(土) 2022年度総会・講演会をオンラインで開催した。
講演会は 前田良三会員(立教大学名誉教授)による「ナチス絵画をめぐって」というテーマで開催された。36名の参加があった。
- * 2022年3月28日(月) 講演会の録画をYouTubeに掲載した。
- * 2022年3月29日(火) YouTube「ナチス絵画をめぐって」を掲載したことを会員に通知。
会員限定で閲覧可能となっています。 <https://youtu.be/ssRLPrnbnc>
- * 2022年5月25日(水) 幹事会開催 以下について話し合いが行われた。
 - ・ 幹事の役割分担決め
 - ・ 今後のオンライン講演会の開催について
 - ・ 関東甲信越支部のHPの充実 <https://hgj-kanto.com/>
 - ・ 来年度の総会について
- * 2023年1月29日(土) 幹事会開催 2022年度総会のプログラムについて話し合った
- * 2月17日(金)、18日(土)
総会案内状を521人にメールで発信。メールのない人やメールが戻る人98人に郵送で案内した。
- * 3月11日(土) 2022年度 総会・講演会 開催

≪講演会≫

Philipp Osten 会員 (慶応義塾大学法学部教授)
 題目: 「ウクライナ戦争と国際刑事法」

2023年度の事業計画

- * 2023年度の総会開催計画
- * 関東甲信越支部 HP (<https://hgj-kanto.com/>) への投稿募集、更新
- * 役員人事について 支部幹事、顧問および監事の人事について提案
- * ドイツ留学説明会を対面式で実施を計画している

(日本フンボルト協会関東甲信越支部長 井田良)

中部支部 2022年度活動報告・2023年度活動計画

2023年5月23日

支部活動について：

当支部はこれまで以下の様な目標を掲げて活動いたしております。(この計画は今後も継続いたします)

1. 会員相互の親睦をはかる。
2. フンボルト志願者およびフンボルト留学生のため便宜をはかり援助をする。
3. フンボルト財団、在日ドイツ公館、ドイツ文化研究所等と連絡し、互に情報を交換する。
4. 中部日本とドイツ間の学術研究者の交流促進に協力する。とくに中部日本におけるドイツ人研究者の調査、研究、文化活動などに極力便宜をはかる。
5. その他

2022年度の活動報告

1) 2022 年度支部幹事会

日時：2022年9月28日（水）20時～、web開催

1. 2022年度の総会・懇親会について
2. その他

2) 2022 年度中部支部 総会、会員懇話会、懇親会

日時、会場：2022年11月27日（日）、KKRホテル名古屋、出席者：9名

○総会

1. 活動報告・計画（本部、支部）
2. 会計報告・予算
3. 理事会報告
4. その他

○懇話会

話題提供者：玉井 秀樹 氏（博士）（豊田合成株式会社 新価値開発部 勤務）

テーマ：「ドイツ ブラウンシュバイク&ゲッティンゲンでの留学経験談（生活、旅行、と研究）」

○懇親会（引き続き同会場で実施）

2023年度の活動計画

2023年度の活動計画は以下の通りですが、何れも検討中です。

3) 2023 年度支部幹事会

日時：夏頃

実施方法：未定

1. 中部支部総会の日程、実施方法、講師について
2. 中部支部での留学説明会の開催について
3. その他
- 4) 2023年度中部支部総会、懇話会、懇親会

日時、実施方法：できれば対面で実施（可能なら秋頃に開催したい）

（日本フンボルト協会中部支部長 和田 肇）

~~~~~  
日本フンボルト協会関西支部**2022**年度活動報告および**2022**年度会計報告（敬称略）

2023年6月1日

（1）日本フンボルト協会関西支部理事・評議員拡大委員会を開催

日時：2022年9月5日（月）18:00～ Zoomミーティング

議事 1) 8月27日（土）開催の日本フンボルト協会の常務理事会報告（伏木信次常務理事）

- 2) 総会で承認された、新理事、新評議員の紹介
- 3) 新評議員によるセミナーシリーズの進捗状況について
- 4) 来年の関西支部総会と今後の運営について

（2）フンボルト協会関西支部新評議員企画第一弾:オンライン講演会 原田英美子会員

新しい評議員の方々のご紹介を兼ねて、それぞれの方の専門や、ドイツ滞在時の思い出などを語っていただくZoomミーティングを計画した。

日時：2022年10月23日（日）15:00～

講演者：原田英美子会員（滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科）

タイトル：「ライプニッツ植物生化学研究所(IPB)で過ごした3年間」

要旨：

発表者の原田は、2002年から2005年まで、旧東ドイツのハレ（Halle an der Saale）市にあるライプニッツ植物生化学研究所（Leibniz-Institut fuer Pflanzenbiochemie、IPB）に研究滞在した。重金属を高濃度で地上部に集積する特殊な植物 *Arabidopsis halleri* の性質を決定する因子を解明する研究プロジェクトに参加した。*A. halleri* の重金属集積性は、1960年代に既に報告されていたが、研究が本格化したのは21世紀に入ってからである。その理由の一つとして、この植物が主に分布しているハルツ山地が旧東西ドイツの境界にまたがっており、ドイツ統一以前は立ち入りが制限されていたことが挙げられる。本発表では、非モデル生物を対象とし、地の利を生かして研究を進める手法について述べる。併せて、Sylvia Pieplow氏の書籍を基に、IPBの歴史についても紹介する。IPBは、1958年に設立された Institut fuer Biochemie der Pflanzen (IBP) が改組されて、統一後の1992年に再出発した研究機関である。歴史の波に翻弄されながらも、植物科学の分野で卓越した業績を挙げている。

（3）日本フンボルト協会関西支部 理事・評議員拡大委員会および講演会

日時：2023年2月19日（日）13:00～ ZOOMによるリモート及び対面

場所：Kyoto-de-meeting（京都駅八条口より徒歩3分 京都アバンティ南側のビル）

〒601-8003 京都府京都市南区東九条西山王町16-5 arch way H・C 4階

関西支部理事・評議員拡大委員会 13:00～15:00

- 議事1) 本部の日本フンボルト協会常務理事の改選に関する件  
2) 2022年度会計経過報告、2023年度予算案に関する件  
3) 2023年3月25日（土）オンラインドイツ研究留学説明会について  
4) 2022年度活動報告（案）に関する件  
5) その他

講演会 15:00～

講演題：「比較法学における日本法及び日本法研究の意義」

講演者：山本敬三会員（京都大学大学院 法学研究科教授）

司会：高山佳奈子会員（京都大学大学院 法学研究科教授）

ファシリテーター：守矢健一会員（大阪公立大学大学院 法学研究科）

（4）関西支部ホームページを更新した

関西支部ホームページ：

<http://www.s-off.com/member/avh-kansai/>

（日本フンボルト協会関西支部長 西川伸一）

---

## 中国四国支部（会員 96名）

2023年5月7日

（2022年度活動報告）

- 支部会員のネットワークを構築し交流の契機となるよう「支部通信」を作成し、メール等で配信した。日本フンボルト協会2022年度総会報告に加え、2名の支部会員から寄稿いただいたエッセイを掲載した。メールアドレス不記載、セキュリティチェックにより送信できなかった会員には、事務局の協力を得て郵送した。
- ドイツ留学説明会への協力  
オンラインドイツ研究留学説明会について関係大学、会員に広報し、関心のある若手研究者に参加を呼び掛けた。数人の会員から協力の返信があり、関係大学機関内で広報した。
- 前中国四国支部長大森晋爾先生のご逝去にあたり、供花をお送りした。

（2023年度活動計画）

- 支部会員のネットワークを構築し交流の契機となるよう「支部通信」3号を作成し、メール等で配信する。支部会員2人のエッセイを掲載の予定。
- 前年度に引き続きドイツ留学説明会に協力するとともに、支部地区内での日独学術文化交流に資する活動を支援する。

（常務理事・支部長 坂越正樹 広島文化学園大学・短期大学学長）

---

## 九州フンボルト会活動報告・活動予定

2023年5月19日

2022年度総会、講演会を以下の通り開催した。

2023年5月25日

日時：2023年3月1日（水）18:30～20:30

Zoomによるリモート開催

参加者：7名

講演会：河野俊行教授（九州大学 大学院法学研究院）

テーマ：「ノートルダム大聖堂の現在—その価値、被災、再建」

今年度の講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモート開催とし、会員間の懇親会も行わなかった。

## 《活動予定》

2023年度は、次の活動を予定している。

- ・2023年度総会および講演会を開催する（2023年秋から冬）。
- ・総会および講演の開催方式は、新型感染症の感染状況を見て、決定する。感染状況によっては、2021年度および2022年度と同様にオンラインによるリモート開催とすることも検討する。
- ・例年行ってきた会員間の懇親会も、新型感染症の感染状況を見て、状況が許せば、実施を検討する。

（常務理事・九州支部長：武内謙治 九州大学大学院 法学研究院教授）